

植物多様性センターの「ツタの花」

ケヤキの木の下に行くと、頭にポトツ、ポトツと何かが降ってきます。正体はツタの花です。ケヤキの幹に這い上がったツタが、花弁とおしべを散らせているのです。ツタはブドウ科の植物でおしべが先に熟す雄性先熟です。開花と同時に葯が開き花粉を出して雄性期となり、花弁が散ると蜜が出て雌性期に変わります。同花受粉を防ぎ、遺伝子の多様性を維持するためのシステムであると考えられています。



開花の様子:ツタは葉の基部の短枝の頂端に花序をつける



雄性期:ブドウの実に似たつぼみは開くと5弁の緑色の星形に



花弁のなかにおしべが格納されているようす



雌性期:おしべと花弁は同時に散り、めしべが残り蜜を出す